

わたしも  
あなたも



緊急取材!

小中一貫教育は  
学校統合で  
益々深まってくと  
考えています

11月

寄居町教育指導課長 塩川和之  
鉢形小学校教頭を経て、令和5年4月から  
就任。趣味は読書・ゴルフ。

小中一貫教育とは、小・中学校段階にあたる9年間の大きな枠で教育を行うもの。中1  
ギャップ(小学校から中学校へ進学の際、新しい環境などになじめず、不登校やいじめ等が  
起きる現象)の解消や学力向上等のメリットがある。

寄居町では平成30年に「小中一貫教育の基本方針」をまとめ、各中学校区ごとに目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成して小中一貫教育を進めています。施設分離型の寄居中学校区や城南中学校区では、中学校の教員が専門性を活かした出前授業を様々な教科で実施しています。男衾中学校区では、施設が隣接しているメリットを活かして、児童・生徒が交流する場面を計画的に設定するとともに、中学校の教員が小学校の授業に定期的に参加し、系統的な指導を展開しています。今後予定されている城南中学校区の学校施設の統合により、地の利を活かしてさらに充実した小中一貫教育を展開していきます。

始まっています 寄居町の小中一貫教育

次ページは学童保育



これが現実!

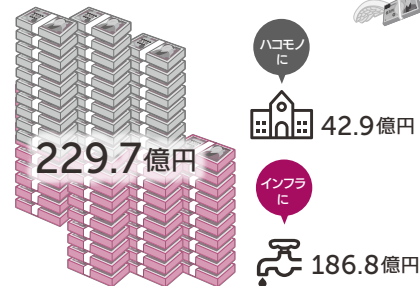
寄居町にあるすべての公共施設を残す場合にかかる費用は…

(公共施設将来更新費用と充当可能額の比較)

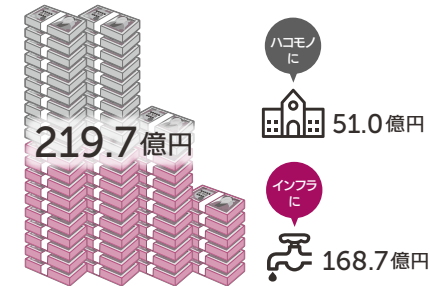
あわせて  
読みたい



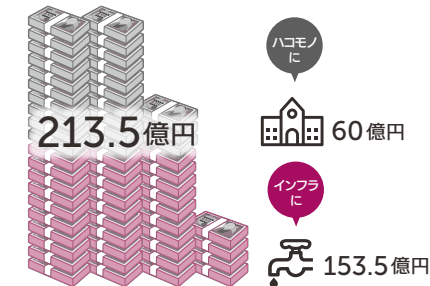
寄居町  
公共施設等  
総合管理計画



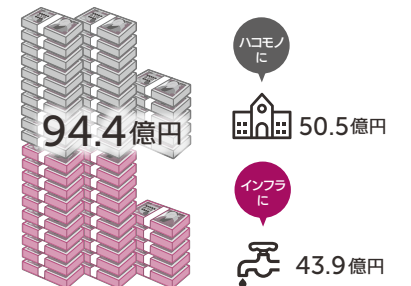
2046~2055年



2036~2045年



2026~2035年

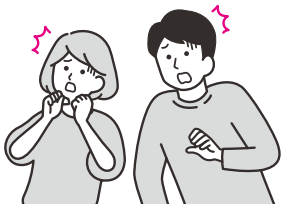


2023~2025年

33年間で  
757.3億円

1年あたり平均22.9億円かかるが  
充当可能額は15.8億円…

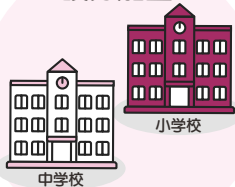
毎年7.1億円足りない!



## 学校統合(折原小・鉢形小の統合)

小中一貫教育 3つの形態

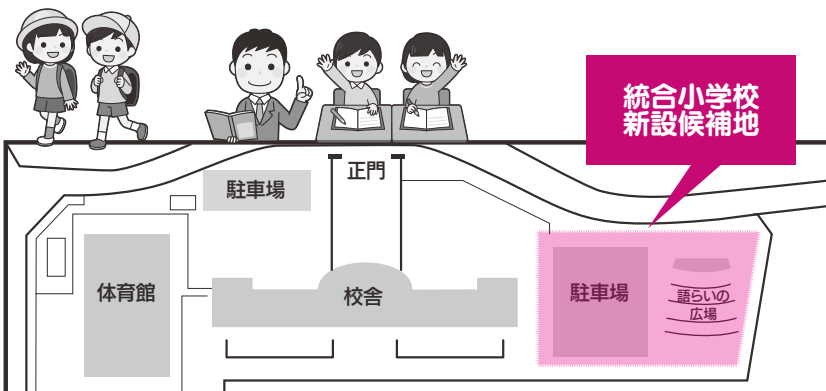
敷地・校舎が別々/  
施設分離型



ひとつの施設に/  
施設一体型



同一敷地・隣接敷地/  
施設隣接型



城南中学校区学校再編整備方針及び統合実施計画より

あわせて  
読みたい



寄居町小中一  
貫教育につ  
いての基本方針



埼玉県小中一  
貫教育推進ガイド

いま、なぜ「学校統合」なのか

寄居町の学校施設は、1967年度から1993年度にかけて建設。その延床面積は、町内の公共施設の中で最も多い全体の42%。本町の公共施設等の33年間の将来更新等費用は約757.3億円。年平均額は22.9億円で、そのうち充当可能な財源見込額は年約15.8億円。年間7.1億円の不足となる。不足額をいかに縮減できるかの視点が重要。また1981年以前に建設した学校は、耐震補強工事は完了しているが施設の老朽化は進行、大規模改修等が必要な時期に差しかかっている。町の学校施設全体の整備方針を定め、長期的な維持管理に関する検討が求められている。

(寄居町公共施設等総合管理計画、および寄居町学校施設個別計画に基づき作成)

改修された男衾中学校。教室の床やロッカー、下駄箱、図書室などに木材が使われている。トイレもきれいに。



緊急取材!

長寿命化改修工  
事が進む男衾中  
3年の生徒に  
聴きました!

前の教室は全体的に灰色という感じでしたが、木になって教室が明るい雰囲気になりました。  
ねぎしまこと 根岸真斗さん

班単位で1つのロッカーに荷物を入れていたのが、1人用のマイロッカーになりました。嬉しいです。  
しまだもも 嶋田颯太さん

